

平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分類] 普及技術

[成果名] もも、ネクタリンのモモ縮葉病防除にチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）が有効である

[要約] モモ縮葉病防除にチウラムフロアブルの 500 倍液を散布する。チウラムフロアブルにはチオノックフロアブル、トレノックスフロアブルがある。

[担当] 果樹試験場環境部

[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

モモ縮葉病に対するチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）の防除効果および、薬害発生の有無を検討した結果、十分な効果が認められ薬害の発生もないことから今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) モモ縮葉病防除にチウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）の 500 倍液を散布する。

農薬登録内容

チウラムフロアブル（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）

[一般名及び含量] チウラム 40.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] C 類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 21 年 9 月 25 日 JPP ネット確認）]

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 方法	使用時期	散布液量	チウラムを含む 農薬の使用回数
もも	黒星病	500 倍	散布	収穫 7 日 前まで	200 ~ 700 /10a	5 回以内
	縮葉病					
	せん孔細菌病					
ネクタリン	灰星病	500 倍	散布	収穫 30 日 前まで	200 ~ 700 /10a	5 回以内
	黒星病					
	縮葉病					
	せん孔細菌病					
	灰星病					

3 利用上の留意点

- (1) 本剤の使用時期はももとネクタリンとで異なるので、使用に当たっては十分注意する。
- (2) チウラムフロアブルにはチオノックフロアブル、トレノックスフロアブルがある。
- (3) 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ってから使用する。
- (4) 蚕毒が強いので注意する。
- (5) 魚毒性が強いので、河川、湖沼、養魚池等に飛散流入しないようにする。
- (6) 石灰硫黄合剤、ボルドー液など強アルカリ性の薬剤との混用は避ける。

4 対象範囲

県下全域

## 5 具体的データ

- (1) 平成 20 年は中発生条件下の試験となり、チウラムフロアブル(チオノックフロアブル)の 500 倍液散布は対照のバルノックスフロアブル 500 倍液散布および、石灰硫黄合剤 10 倍液散布と比較し同等の高い防除効果が認められた。
- (2) 平成 21 年は少発生条件下の試験となり、チウラムフロアブル(チオノックフロアブル)の 500 倍液散布は、対照のバルノックスフロアブルに比較しやや劣る防除効果であったが、無散布区と比較し、防除効果が認められた。
- (3) いずれの試験においても、葉、果実、新梢に薬害は認められなかった。

表 1 モモ縮葉病に対するチウラムフロアブルの防除効果(平成 20 年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈倍数	調査葉叢数	発病葉叢率 (%)	防除価	薬害
チウラムフロアブル (チオノックフロアブル)	500	310.3	0.0	100.0	なし
バルノックスフロアブル	500	366.0	0.0	100.0	なし
石灰硫黄合剤	10	443.7	1.5	94.2	なし
無散布		369.3	25.7		

防除価 =  $100 - (\text{散布区の発病葉叢率} / \text{無散布区の発病葉叢率}) \times 100$

実施場所: 果樹試験場内ほ場 供試品種: 川中島白桃 10 年生

試験規模: 1 区 1 樹 3 反復

処理方法: 平成 20 年 3 月 23 日に動力噴霧機を用いて約 15 / 樹散布した。供試薬剤には展着剤(アイヤー10,000 倍)を加用した。

調査方法: 平成 20 年 5 月 13 日に目どおりの 1 樹約 300 葉叢について発病の有無を調査し、発病葉叢率を算出した。薬害については随時肉眼観察した。

表 2 モモ縮葉病に対するチウラムフロアブルの防除効果(平成 21 年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈倍数	調査葉叢数	発病葉叢率 (%)	防除価	薬害
チウラムフロアブル (チオノックフロアブル)	500	581.0	1.7	50.6	なし
バルノックスフロアブル	500	762.6	0.9	73.0	なし
無散布		884.6	3.4		

防除価 =  $100 - (\text{散布区の発病葉叢率} / \text{無散布区の発病葉叢率}) \times 100$

試験場所: 果樹試験場内ほ場 供試品種: 川中島白桃、11 年生

試験規模: 1 区 1 樹、5 反復

処理方法: 平成 21 年 3 月 18 日に動力噴霧機を用いて約 10 / 樹の割合で散布した。散布薬剤には展着剤(アイヤー10,000 倍)を加用した。

調査方法: 平成 21 年 5 月 15 日に目どおりの全葉叢について発病の有無を調査し、発病葉叢率を算出した。薬害については随時肉眼観察した。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹新規農薬等の効果試験、平成 20 ~ 21 年度(2008 ~ 2009 年度) 民間受託